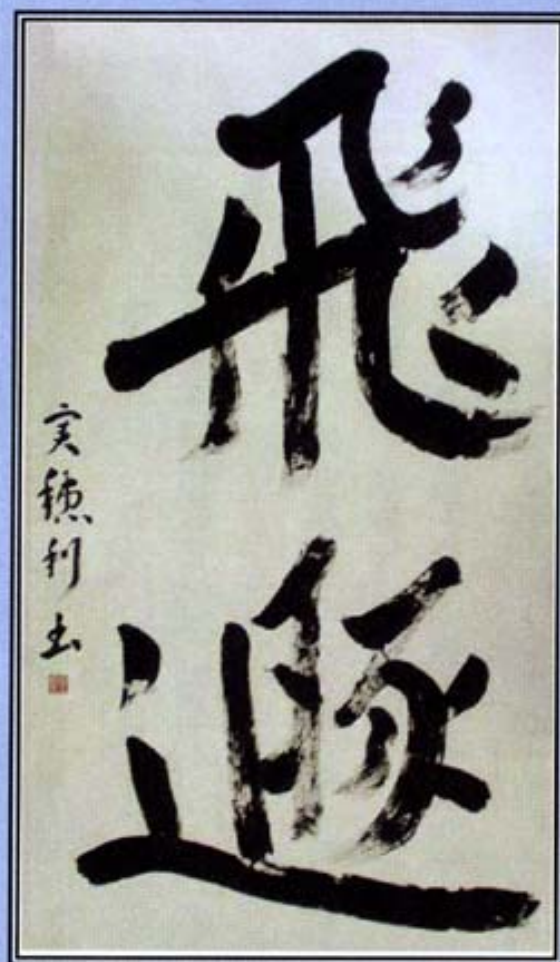


京三中・山城高同窓会 会誌

双ヶ丘



第3号 2010/03/1

合		唱		部
ダ	ン		ス	部
手		話		部
卓		球		部
ラ	グ	ビ	ー	部
パ	ド	ミ	ン	部

飛^ひ遯^{とん}

「飛んで姿を消す・俗世間を離れる」

近畿高等学校総合文化祭出品

直径3センチ、鋒の長さ9センチの大筆を使用し、
超濃墨で書きました。
勢いのある作品をめざし沢山練習しました。

二年生 北田 実穂利

母校だより

クラブから

◆ 合唱部

合唱部は、現在まで幾度となく廃部の危機を乗り越えて来ました。多くの人の協力と応援の声に支えられたクラブです。最近では3年の先輩方が引退され、部員は2名となりましたが、日々先輩方が残された教えを守り、基本的な発声を大切にしながら、練習しています。少人数だからこそ技術的指導が行き渡りやすく、伝え遺されてきた『合唱部の心』というものも部員がしっかりと受け継いでいくことができます。そのためか、合掌コンテストに出場、金賞を頂いたこともありました。

本校合唱部には、大人数の合掌のような迫力はありませんが、少人数だからこそその美しさがあります。この美しさを歌いつないでいきたいと思います。
(部長 菱崎 結)

◆ ダンス部

ダンス部には現在1年から3年まで合わせて40名を超える生徒が在籍し、その数は年々増えてきています。顧問は特にダンス経験があるわけではなく、生徒達は独力でダンスの構成や音楽の編集をし、先輩から後輩へその技術を伝達しながらパフォーマンス力を着実に向上させています。一番の活躍の場は学園祭のステージで、特に今年の発表は質的に非常に良いものであったと生徒達を誇らしく思っています。ダンス部がある京都の公立高校はめずらしいようで、いくつかの中学校から「高校ではダンスをしたいので見学をしたい」と申し出があり、実際の活動を見に来られています。予想以上に熱心に本格的に取り組んでいて雰囲気もとてもよい、という感想を保護者や中学生の方々からいただき、山城高校への志望を更に高めてもらえたことをうれしく思っています。
(顧問・河村明美)

◆ 手話部

◎夏の交流学習会について

一年 西内瑛里・大内実奈

七月二日から二三日の二泊三日、福井県の若狭湾で交流学習を行いました。

一日目は、海で楽しく遊びました。夜には、それぞれが調べてきた内容を発表しました。二日目、朝の集いで山城高校と手話部のことを他の団体の前で説明しました。この日の活動内容は、シーカヤックとシュノーケリング。一年生にとっては初めてのことばかりで、とてもよい経験になりました。この日の夜と三日目は、一日目の夜と同じように個人が調べてきたことを発表し感想を出し合いました。

三日間を通じて充実した活動をする事ができ、良かったと思っています。

◎人生の中の障害物

二年 小島皓治

僕にとって二回目である手話弁論大会で、自分の言いたいことを聴衆に伝え、結果的に優勝し、優秀賞をもらいました。内容は、「僕は生まれつき耳が悪かったのではなく、髄膜炎という病気にかかってしまい、耳が全く聞こえなくなった。補聴器ではなく、人工内耳という特別な補聴器をはめることになり、その後はあまり人と普通に話せなかったなど、暗い人生を送った。その間は音楽は僕にとって全く無関心な対象であったが、コブクロと出会ってから音楽に興味を持つようになった。このことで一つの障害物を乗り越えたことになり、他にもいろいろな障害物を乗り越えられた。これからも障害物を乗り越えていきたい。」というものです。

みんなにも、「できるだけ壁を乗り越えよう」と伝えたかったです。この大会で言いたいことが言えてよかったです。何かすっきりした気分になりました。

◎手話部は第二のホームルーム

三年 木村 薫

手話部に入ってから年月日を数えると、一、二年前の出来事が、かなり昔のことのよう思える。何故手話部に入ったかさえ覚えていない。しかし、聴障アッセンブリーが入部するきっかけになったことは覚えている。聴障生と、手話の存在に衝撃を受け、それらに心を惹か

れたのだ。

手話部は第二のホームルームだ。私はそこで手話を習い、聴障生とは何かを知った。毎週水曜のミーティングで彼らと様々な活動を共にし、夏休みの学習会（合宿）で、いろんなことを発表した。手話でのスピーチにも挑んだ。しかし、手話について知らないことは多く、宿題がまだまだ残っている。ともかく手話部の皆に感謝したい。

◆ 卓球部

12月現在、部員は男子2年生2名。男子1年生6名。合計8名です。平日放課後、午後3時30分頃～午後5時か午後5時～午後6時30分頃、土曜日午前8時30～12時30分頃を基本として体育館2F格技場（尚武館）で練習を行なっています。格技場は柔道部・剣道部との3部で共同使用のため、格技場の半面を使って卓球台3台を出して練習しています。

10・11月の府立高校大会（団体戦）では1次予選大会Bブロックで北嵯峨・北陵・北桑田・紫野・亀岡高校に勝ち、2次決勝大会に進出。1回戦で桃山高校に勝利しましたが、二回戦で西乙訓高校に敗北。

また、秋季卓球選手権大会では男子シングルスで1年生が二次予選に進出。

1月の府立高校大会（個人戦）、全国高校選抜卓球大会男子シングルス代表選手選考会に向けて日々練習を行なっています。

◆ ラグビー部

顧問 江村 俊夫

今年度から山城高校ラグビー部顧問として指導をしています。スポーツが伸び伸びとできる環境にあることに感動し、ラグビー部を強くしたい一心で頑張っています。しかし部員数13名のきびしい現状を何とかしなくてはと思い、少数であるが、一人一人が、本物のプレイヤーとして活躍することよりも、人間としての強さを求める練習に励んでおります。簡単なことではないとはわかっていますが、今後山城高校ラグビーの方向がぶれることなく進めることの方が重要だと考

えています。早い段階で結果がでることではないと思いますが、じっくりと腰をすえ歩んで行く覚悟です。

◆バドミントン部

現在のバドミントン部の部員は、女子生徒のみで、20名程度生徒が日々練習に取り組んでいます。周辺の中学校で、バドミントン部をもっているところが少なく、高校からバドミントンをはじめる生徒が大半です。バドミントンは、瞬発性や持久力、動体視力、筋力などあらゆる運動能力が試されるスポーツです。1年のときには、羽にラケットをあてるのが精一杯の生徒が、学年をおうごとに実力をつけ、3年生のときには、相手の動きを見ながら、確実にスマッシュを決めるといったプレイができるようになります。それだけではなく、最後まで羽を追いかけるように、何事に対してもあきらめない精神力を培っており、それが、生徒それぞれの進路実現にも繋がっているようです。

バドミントン部 顧問 渡辺 一郎